

アドバイス・レポート

平成 19 年 3 月 10 日

平成 18 年 12 月 13 日付けで第三者評価の実施をお申込みいただいた
 ヴィラ向島デイサービスセンター様につきましては、第三者評価結果に基づき、
 下記のとおりアドバイスをいたしますので、今後の事業所の運営及びサービスの
 の提供に役立ててください。

記

評価が高かった点	<ul style="list-style-type: none"> i) 法人の考え方として部署間で連携してサービス提供できる体制をとっておられました。 ii) 事故対応の研修、職員研修、全職員を対象とした体験研修等、事業所内での研修が、内容的に具体的で充実していて生きた研修を実施しておられます。 iii) 同性介護の徹底など利用者の立場に立ったサービスを提供しておられます。 iv) 毎日の喫茶コーナーやデイサービスのプログラム等に地域のボランティアを活用され、よりサービスの質を充実させる形でボランティアを導入されています。
理 由	<ul style="list-style-type: none"> i) について どの部署はどの部署を応援する、というように部門間の応援体制を決めておられ、スタッフの状況に拘らず利用者にサービスを提供できる体制が確保されていると思います。 ii) について 個別の介護場面での事故対応の研修、スタッフのオムツ体験、特浴体験など利用者の立場に立った体験研修に工夫がみられ、職員育成の中により利用者側に立ったサービス提供ということを事業所として心掛けておられることが窺えました。 iii) について ご利用者のプライバシーや人権への具体的な配慮への事業所としての姿勢が窺えました。 iv) について 施設全体として地域との関わりを重視しておられることが窺え、また、デイサービスのサービス内容を大変多彩なものとするのに役立っていると思いました。
改善努力を要する点	<ul style="list-style-type: none"> i) 静養スペースに物が置かれていたり、配膳スペースのそばに洗濯物干しの器具が置かれている点や、広いオープンスペースのダイルームにほとんど目線を遮るものが無い等、居住環境上工夫・検討を要する点が見受けられました。 ii) 在宅サービスの個人ファイルの保管状況や、ダイルームでの記録方法等の点で、個人ファイル、個人記録などについて、

	<p>流出など外部に触れやすい状況に置かれているように思われました。</p> <p>iii) 利用書の要望やスタッフの意見にも提供する食事の温度に関するものが見受けられました。</p> <p>iv) 利用者決定について、適切に対応されていましたが、利用決定に至るルールについて文書化されていませんでした。</p>
<p style="text-align: center;">理 由</p>	<p>i) について 事業所内の環境が適切に整えられていることは、安全・衛生の条件を整える意味でも、利用者にとっての居住環境を整える意味でもケアサービスの一環をなすと考えられます。</p> <p>ii) について 在宅のサービス部門で利用者の情報を共有するためファイルを一本化され、利用者の共通ファイルが施設の共用部分におかれた棚に収納されていましたが、施錠や持ち出しのルールを決めておられませんでした。また、ダイルームで記録をとっておられましたが、机に個人記録が置かれたままになっていました。</p> <p>iii) について 食事を美味しく適用するために適当な温度での提供が一つの条件になると思いますが、配膳方法など検討の余地があるのではないかと思います。</p> <p>iv) について 利用者にとって、利用できる条件が客観的に明らかになっていることは事業所のサービス利用についての事業所の公正性を示すものであり、事業所に対する信頼に繋がるものと思います。</p>
<p style="text-align: center;">具体的なアドバイス</p>	<p>i) について 物品の配置、収納方法など検討されると同時に、簡単な目線を遮るものを配置されるなどの方法を検討し、利用者や来訪者、スタッフにとっても居心地の良い居住空間を工夫されてはいかがでしょうか。</p> <p>ii) について ファイルの書庫の施錠や持出しの際の記録ノートへの記載など、ファイルの取扱いについての原則を明文化して在宅担当のスタッフに徹底されてはいかがでしょうか。また、ダイルームでの記録方法やその際の記録の取扱いについても、ハード面の工夫や取扱いをルール化しておかれてはいかがでしょうか。</p> <p>iii) について 盛付けて提供するだけでなく、鍋やお櫃のまま提供しダイルームで盛付けたり、ご利用者に手伝って頂くという方法も考えられます。そのことで、より適温な状態で食事を提供できると同時に、一層ご利用者の食事への楽しみも増すのではないのでしょうか。</p> <p>iv) について サービス利用の条件、待機期間、利用できないケース、利用できないときの事業所としての対応、等を文書化して、説明資料等に活用されるといいのではないのでしょうか。</p>

(様式6)

評価結果対比シート

事業所番号	267090021
事業所名	社会福祉法人洛南福祉会ヴィラ向島デイサービスセンター
サービス種別 (複数記入可)	通所介護
評価機関名	京都市老人福祉施設協議会

大項目	中項目	小項目	評価項目	評価結果		
				自己評価	第三者評価	
I 健全な組織体制	(1)組織の理念運用方針	① 理念の周知と実践	組織の理念が、利用者及びスタッフ等に周知され、法人の理事長及び事業所の管理者等(以下、「責任者等」という。)を含むスタッフ全員が、理念に沿ったサービスの提供を実践している。	A	A	
		② 運営方針の周知と実践	事業所の運営方針が、利用者及びスタッフ等に周知され、責任者等を含むスタッフ全員が、運営方針に沿ったサービスの提供を実践している。	A	A	
		③ 運営規程の遵守	事業所の運営規程が、利用者及びスタッフ等に周知され、責任者等を含むスタッフ全員が、運営規程に沿った事業所の運営及びサービスの提供を実践している。	A	A	
	(2)組織体制	① 責任者等の協働	責任者等は、介護サービスの質の向上に熱意を持ち、事務所の運営について、スタッフと共に取り組んでいる。	A	A	
		② 管理者による状況把握	管理者は、事業の実施状況等を把握し、いつでもスタッフに対して具体的な指示を行うことができる。	A	A	
		③ 透明性の確保	責任者等は、公正・適切なプロセスで意思決定を行い、組織としての透明性の確保を図っている。	A	A	
		④ 支援体制の充実	利用者の主治医や医療機関・介護保険施設との間で、連携体制又は支援体制が確保されている。	A	A	
	(3)労働環境	① 労働環境への配慮	質の高い介護サービスを提供することができるよう、スタッフの労働環境に配慮している。	A	A	
		② ストレス管理	スタッフの業務上の悩みやストレスを解消するために、具体的な取組みを行い、業務の効率を高めている。	A	A	
		③ 休憩場所の確保	スタッフが充分にくつろげ、心身を休めることができる休憩場所を確保し、必要な設備・備品を備えている。	A	A	
	(4)課題の設定	① 重点課題の設定	外的環境の変化や傾向を見極めた上で、事業の運営における重点課題が設定され、組織全体として課題の達成が図られている。	A	A	
		② 業務レベルにおける課題の設定	各業務レベルにおいて課題が設定され、スタッフ全員が課題の達成に取り組んでいる。	A	A	
	(5)人材の確保・育成	① 質の高い人材の確保	スタッフの採用時において、質の高い介護サービスを提供できる人材の確保を主眼としている。	A	A	
		② 継続的な研修の実施	採用時研修・フォローアップ研修等を実施しており、スタッフは、段階的に必要な知識や技能を身につけることができる。	B	B	
		③ OJTの実施	スタッフが業務を通じて日常的に学ぶことを推進しており、スーパーバイズ(指導・助言)を行う体制がある。	A	A	
	小 計(A=2点、B=1点、C=0点として点数化のこと)				29	29

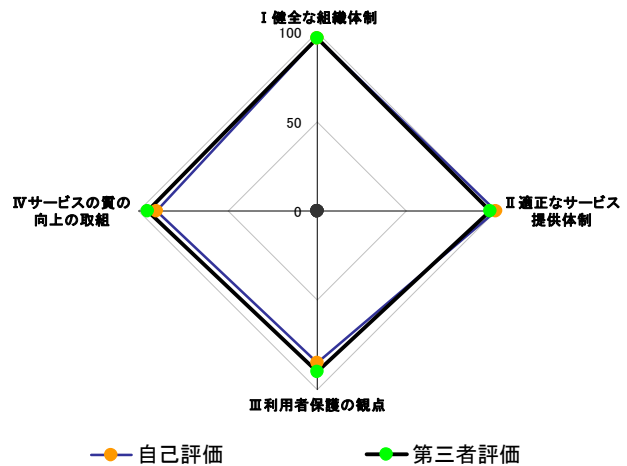
大項目	中項目	小項目	評価項目	評価結果		
				自己評価	第三者評価	
II 適正なサービス提供体制	(1)サービスの品質の確保	① 業務マニュアルの作成	事故防止や安全確保を踏まえた業務マニュアルが作成され、スタッフに活用されている。	A	A	
		② サービス提供に係る記録	利用者の状況及びサービスの提供状況等が適切に記録されており、サービス提供を円滑に行うための工夫がされている。	A	B	
		③ 確実な情報伝達	スタッフ間の申し送りや情報伝達を確実に行うとともに、重要な事項については、全てのスタッフに伝わる仕組みとなっている。	A	A	
		④ ケアカンファレンス	定期的又は必要に応じてケアカンファレンス(介護検討会)が開催され、意見交換が行われている。	A	A	
	(2)個別援助計画	① アセスメントの実施	利用者一人ひとりの心身の状況や生活状況、利用者及びその家族の希望等を踏まえたうえでアセスメントを行っている。	A	A	
		② 個別援助計画の作成	アセスメントに基づき、利用者一人ひとりの目標を明らかにした個別援助計画を作成している。	A	A	
		③ 専門家等に対する意見照会	個別援助計画の策定に当たり、必要に応じて利用者の主治医・OT/PT・介護支援専門員・他のサービス事業所等に意見を照会している。	A	A	
		④ スタッフの意見の集約	個別援助計画の策定に当たっては、当該利用者に関わる全てのスタッフの意見を採り入れており、共通認識に基づく目標達成が図られている。	A	A	
		⑤ 個別援助計画の見直し	定期的又は必要に応じて、個別援助計画の見直しを行っている。	A	A	
	(3)利用者等の希望尊重	① 利用者・家族の希望尊重	個別援助計画の策定及びサービスの提供内容の決定に際して、利用者及びその家族の希望を尊重している。	A	A	
		② 希望等を引き出す働きかけ	利用者やその家族が、希望や要望、気掛かりなことをスタッフに気軽に伝えたり、相談できる機会を確保している。	A	A	
	(4)衛生管理	① 感染症の対策及び予防	感染症の対策及び予防に関するマニュアルの作成等により、スタッフ全員が感染症に関する知識をもってサービスの提供を行っている。	A	A	
		② 事業所内の衛生管理等	施設(事業所)内における物品等の整理・整頓及び衛生管理を行い、効率的かつ安全なサービスの提供を行っている。	A	A	
	(5)危機管理	① 事故・緊急時等の対応	事故や緊急時等における対応等を定めたマニュアルがあり、年に1回以上、必要な研修又は訓練が行われている。	A	A	
		② 事故の再発防止等	発生した事故等に係る報告書や記録を作成し、事故の再発の防止のために活用している。	A	A	
	小 計(A=2点、B=1点、C=0点として点数化のこと)				30	29

大項目	中項目	小項目	評価項目	評価結果		
				自己評価	第三者評価	
Ⅲ 利用者保護の観点	(1)利用者保護	① 人権等の尊重	利用者の人権や意思の尊重について、常に問題意識をもってサービスの提供を行っている。	A	A	
		② プライバシー等の保護	利用者のプライバシーや差恥心について、常に問題意識をもってサービスの提供を行っている。	A	A	
		③ 個人情報保護	利用者の個人情報の保護及び職務上の守秘義務について、スタッフに徹底している。	B	B	
		④ 利用者の決定方法	サービス利用者等の決定を公平・公正に行っている。	B	A	
	(2)情報提供	① 事業所情報等の提供	事業所の概要及びサービス内容について、利用者やその家族にわかりやすく説明を行っている。	A	A	
		② 利用者に係る情報交換	サービス利用時の状況について家族に情報提供を行い、家族から家庭での状況について情報を得る等、情報交換を行っている。	A	A	
		③ 開示請求への対応	利用者やその家族から、提供を受けたサービスの内容や費用の明細等について情報開示の請求があった場合には、適切に対応している。	A	A	
		④ 地域への情報公開	事業所の運営理念を地域に対して啓発・広報するとともに、事業所の機能・知識等を地域社会に提供している。	A	A	
	(3)利用契約	① 料金の明示と説明	介護サービスの利用に際して必要となる料金について、根拠を明らかにして利用者にわかりやすく説明している。	A	A	
		② 合意書面の作成	サービスの提供開始に当たっては、利用者及び事業者双方の権利・義務を明らかにし、合意の結果を契約書等として書面にしている。	B	B	
	小 計 (A=2点、B=1点、C=0点として点数化のこと)				17	18

大項目	中項目	小項目	評価項目	評価結果		
				自己評価	第三者評価	
Ⅳサービスの質の向上の取組	(1)苦情解決	① 苦情・相談窓口の明示	利用者からの苦情や相談を受けつける窓口及び担当者等が明示され、利用者及びその家族に周知されている。	A	A	
		② 苦情やトラブルへの対応	苦情やトラブルがあった場合には、組織として迅速かつ誠意をもって対応している。	A	A	
		③ 第三者への相談機会の確保	公的機関等の窓口相談や苦情を訴えるための方法を、利用者及びその家族に周知している。	A	A	
		④ 苦情に基づくサービスの改善	利用者からの苦情をサービスの向上に役立てている。	A	A	
	(2)質の向上に係る取組	① 利用者満足度の把握	利用者の満足度を把握し、サービスの質の向上に役立てている。	B	B	
		② 質の向上に対する検討体制	サービスの質の向上に係る検討体制を整備し、責任者等を含むスタッフ全員が積極的に参加している。	A	A	
		③ 評価の意義についての周知	サービス評価を行うことの意義及び評価結果をサービス改善に活かすことが、責任者等を含むスタッフ全員に周知され、理解されている。	A	A	
	(3)評価の実施	① 自主点検の実施	京都府が各事業所に配布している「自主点検表」を活用して、年に1回以上、自主点検を行っている。	A	A	
		② 自己評価の実施	事業所の体制及びサービスの内容に係る自己評価を定期的又は必要に応じて行い、自らが提供するサービスの質の改善に役立てている。	B	A	
		③ 第三者評価の受け入れ	客観的なサービス水準の把握のために第三者評価を受け、評価結果を積極的に公表している。	A	A	
	小 計 (A=2点、B=1点、C=0点として点数化のこと)				18	19

【大項目ごとの点数】

大項目	自己評価	第三者評価結果
I 健全な組織体制	29	29
II 適正なサービス提供体制	30	29
Ⅲ利用者保護の観点	17	18
Ⅳサービスの質の向上の取組	18	19



【達成率換算表】

大項目	達成率			
	自己評価		第三者評価	
I 健全な組織体制	29/30	97%	29/30	97%
II 適正なサービス提供体制	30/30	100%	29/30	97%
Ⅲ利用者保護の観点	17/20	85%	18/20	90%
Ⅳサービスの質の向上の取組	18/20	90%	19/20	95%